

史跡山形城跡(2025) 本丸北堀土塁跡・東堀土塁跡 現地説明会資料

令和7年11月15日(土) 山形市文化スポーツ部 文化創造都市課

調査要項

遺跡名	国指定史跡 山形城跡
所在地	山形市霞城町(霞城公園)
遺跡番号	1番(山形県遺跡地図)
調査期間	令和7年5月15日~12月26日(予定)
調査面積	本丸北堀土塁跡・東堀土塁跡 約900㎡
調査原因	史跡山形城跡(霞城公園)整備事業
遺跡種別	城郭(近世城郭)
時代	近世・近現代
遺構	堀跡・土塁中段石積遺構・護岸石垣など 【最上氏時代】土塁中段石積遺構 【江戸後期】護岸石垣・瓦捨て場跡
遺物	瓦類・陶磁器碗皿類・土師質土器・金属製品・石製品・須恵器土師器 など
調査事業の主体	山形市まちづくり政策部公園緑地課 山形市文化スポーツ部文化創造都市課
調査実施の機関	山形市
調査担当	山形市文化スポーツ部 文化創造都市課

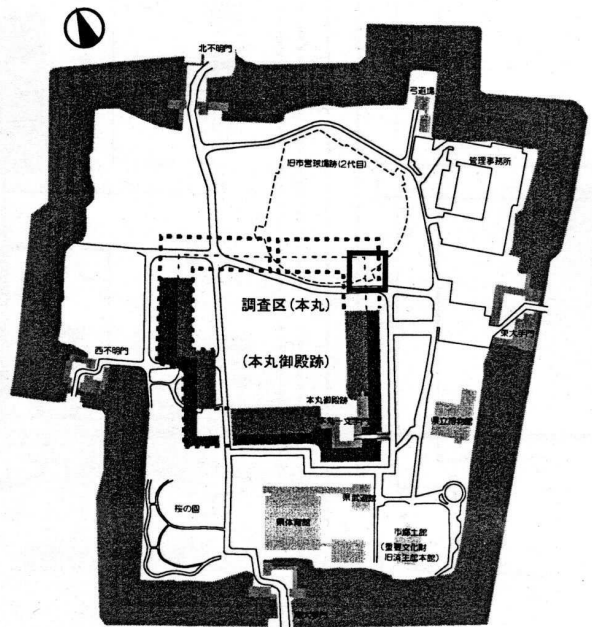
1 概要(史跡の立地及び周辺環境)

山形城跡は、最上義光が整備したといわれる本丸・二ノ丸・三ノ丸からなる平城です。昭和61年に国史跡指定を受けて以来整備に取り組み、二ノ丸東大手門や本丸一文字門石垣などを復原し、新たなシンボルとなっています。

城跡の周囲は市街地となっており、その中心に位置します。市街北部を流れる馬見ヶ崎川による扇状地上に立地し、本丸一文字門付近で海拔約130mを測り湧水地帯に築かれた平城であったと考えられます。

令和元年度より本丸北堀跡の発掘調査を行い、鳥居氏時代以後の北堀・北門土橋等とともに、最上氏時代の堀土塁に係る遺構を発見してきました。発掘調査場所は本丸土塁の北東隅部分で、土塁裾を護るための護岸石垣を検出したほか、本丸北東部の「良ノ方櫓」由来の瓦捨て場を検出しました。

今回公開する調査成果は、山形城の新たな歴史を示す貴重な発見です。



第1図 山形城跡調査区位置図

歴代藩主年表

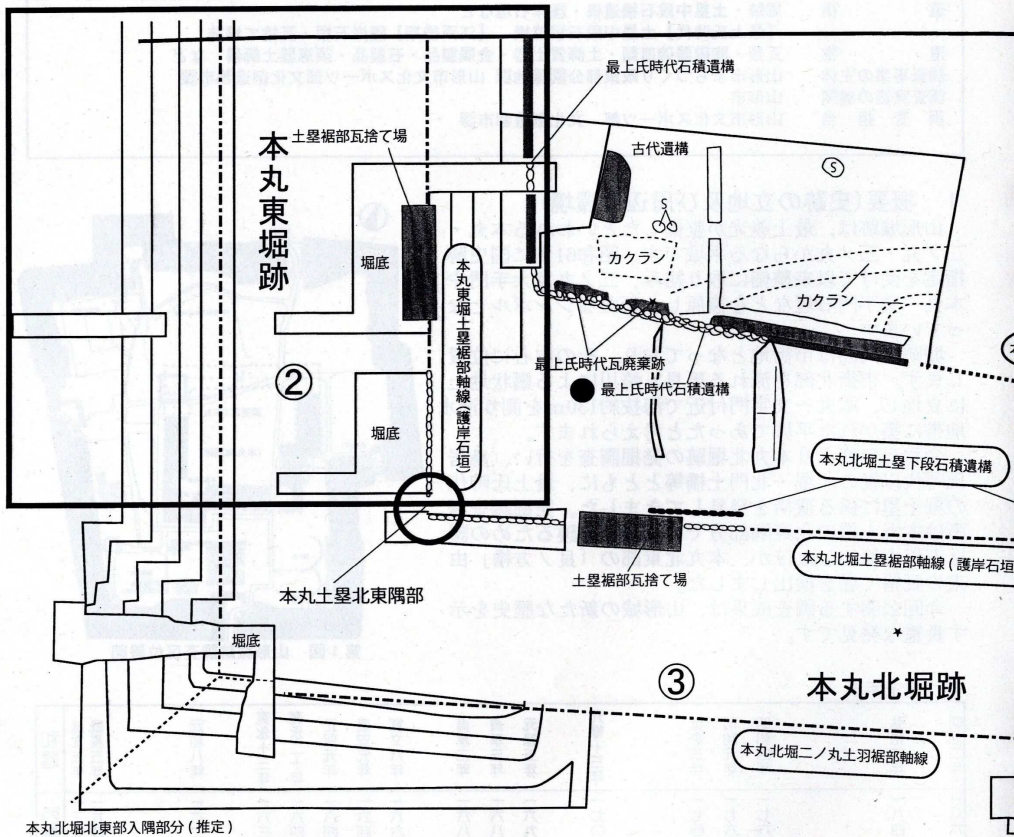
明治二年	弘化二年	明和四年	明和元年	延享三年	元禄十三年	元禄五年	貞享三年	貞享二年	寛文八年	慶安元年	正保元年	寛永二十年	寛永十三年	元和八年	慶長五年	延文元年	和暦							
一八六九	一八四五	一七六七	一七六四	一七四六	一七〇〇	一六九二	一六八六	一六八五	一六六八	一六四八	一六四四	一六四三	一六三六	一六二二	一六〇〇	一三五六	西暦							
水野忠弘	水野忠精	秋元志朝	秋元久朝	秋元永朝	幕府領	(大給) 松平乗佑	堀田正亮	堀田正春	堀田正虎	堀田正仲	奥平昌章	奥平昌能	(奥平) 松平忠弘	(結城) 松平直基	幕府領	保科正之	鳥居忠恒	鳥居忠政	最上家信(義俊)	最上家親	最上義光	斯波兼頼	藩主	
五万石			六万石		六万石		一〇万石		一〇万石		九万石		十五万石	十五万石		二十万石		二十二万石		五十七万石				石高

2 本丸北堀土塁跡・東堀土塁跡発掘調査の成果

2-1 【本丸長ノ方櫓由来の瓦捨て場】

本丸北堀跡は令和元年の土橋跡検出に始まり、継続調査を実施してきました。令和7年度は本丸北堀土塁から折れる本丸東堀土塁跡の護岸石垣と、その前面に検出した「瓦捨て場」の瓦の取り上げ確認作業及び最上氏時代の土塁中段石積遺構の南側への延伸確認を行いました。瓦は極めて大量に廃棄した痕跡です。黒鯉瓦及び黒鬼瓦破片が出土しており、江戸後期の秋元氏時代頃に廃棄されたものと考えられます。また、昨年度末の追加調査で、瓦捨て場から少し離れた地点で「違い羽」を中心に配置した鬼瓦が出土しました。これまで初めての文様です。

令和7年度 発掘調査範囲



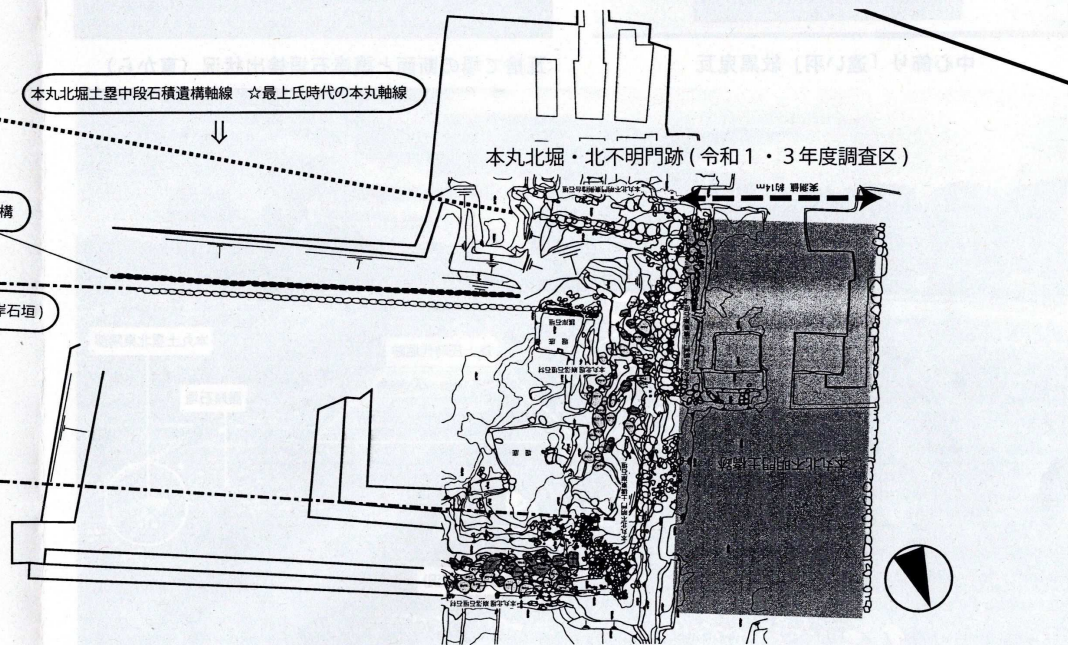
2-2 【本丸北土塁跡・東土塁跡】～土塁中段石積遺構の延伸と護岸石垣との関係～

令和4年度の発掘調査で本丸北堀土塁跡の土塁裾部の護岸石垣と、最上氏時代の土塁中段石積遺構を確認しましたが、令和7年度の発掘調査では、本丸北東部で屈曲した本丸東土塁に護岸石垣と土塁中段石積遺構が連続して築かれたことがわかりました。

護岸石垣は、全体高さが約70cmから80cmの高さで河川の小形玉石を主体に横積みの石垣です。これは本丸北土塁裾部の護岸石垣を同じ構造で一体として築いたことが明らかです。また、石は平滑面を前面に揃えており、高さはありませんが「面」を整える意識がうかがえます。

一方、護岸石垣から上方約1.5mの高さに土塁中段石積遺構を検出しました。これは令和4年度の発掘調査以来検出を続けてきた遺構で、護岸石垣同様本丸東土塁への連続性を確認しました。安山岩で直径は概ね1m前後の河川玉石で、検出範囲においては2段であるが比較的下段の石材が大きく、上段が小規模でした。また、崩落した状態と捉えられる石材も認められました。

本丸東土塁の護岸石垣と土塁中段石積遺構の配置はほぼ並行して配置されています。この状況は平成12年から18年にかけて発掘調査を行った本丸東堀土塁跡（現在復元している堀土塁跡）においても同様でした。この土塁中段石積遺構は、最上氏時代の土塁痕跡と考えられますが、本丸の東側の軸線は最上氏時代にあわせて掘り広げ、本丸北堀土塁については鳥居氏時代の大幅改修の際に、大きく軸線を変えて修正したことが判りました。



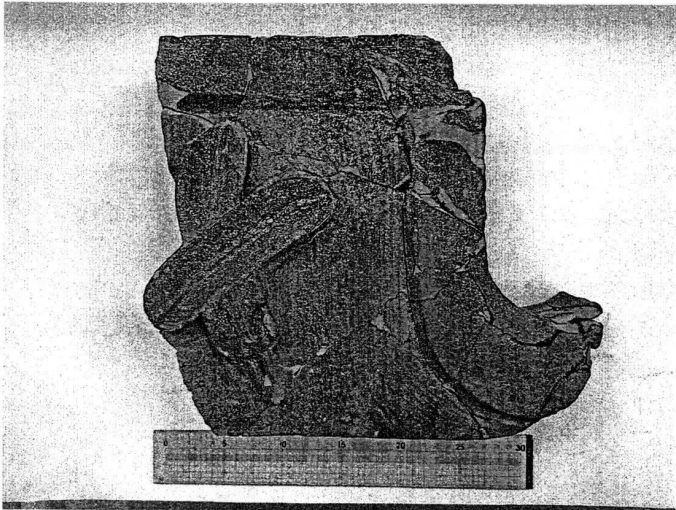
※①～③は現地説明会での案内順位です。

3 出土遺物の成果

3-1 【本丸東堀土塁跡調査区】

本丸東堀土塁にも「瓦捨て場」がありました。瓦は極めて大量で鬼瓦や鯨瓦を含みます。軒丸瓦や軒平瓦は江戸時代半ばの瓦を主体として江戸時代前期の鳥居氏時代と思われるものから、秋元氏時代の赤瓦までが出土しましたが、最上氏時代と幕末の水野氏時代の瓦は含まれません。

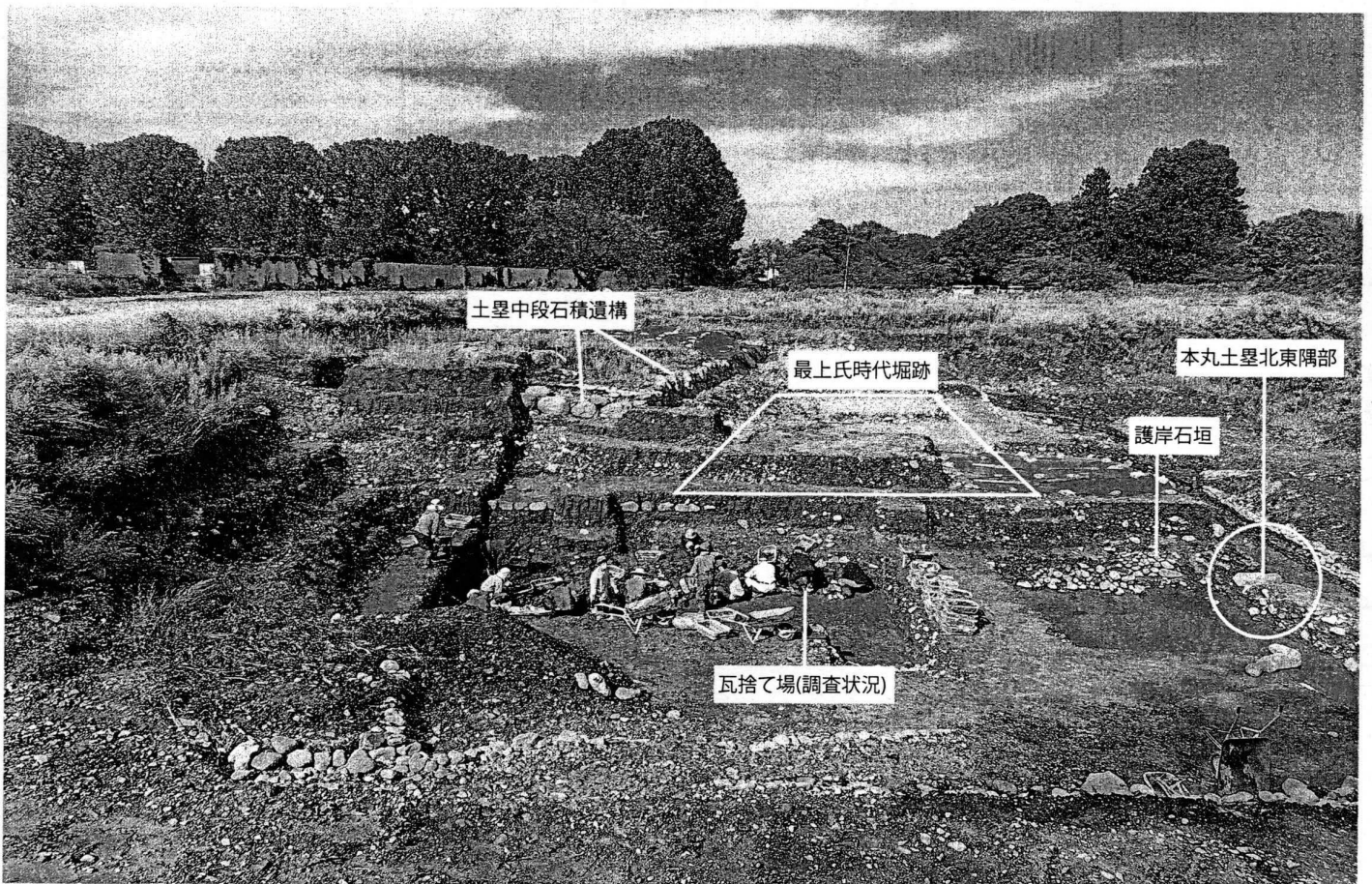
写真は「違い羽」を中心に配置した鬼瓦で、この文様は初めての発見です。瓦捨て場から少し離れた地点の堀底から出土しました。本丸良ノ方櫓で使われた鬼瓦と推定しています。



中心飾り「違い羽」紋黒鬼瓦



瓦捨て場の断面と護岸石垣検出状況（東から）



編集後記

本丸北堀土塁跡・東堀土塁跡 発掘調査状況全景（東から）

現地説明会開催に当たり関係各位に多大なご理解・ご協力を賜りましたこと誠に感謝申し上げます。なお、山形城跡の復元整備事業に係り関連する資料を探しています。お心当たりの方は下記までご連絡下さいますようお願いいたします。

【お問い合わせ先】〒990-8540 山形県山形市旅籠町二丁目3番25号 山形市まちづくり政策部公園緑地課 Tel.023(641)1212(代)

【編集・発行】山形市文化スポーツ部 文化創造都市課 文化財係